

第7回意見聴取会での議論を踏まえた 本市における1人1台端末活用について

教育DXに係る当面のKPI

インプット（ハード面）

- 1 1人1台端末**
- 指導者用端末が不十分
 - 故障頻度の増加に伴い端末活用切れ目
- 2 ネットワークの改善**
- 速度不十分
 - アセスメント不足
 - セキュリティポリシーの未整備

インプット（ソフト面）

- 3 GIGA×校務DX**
- クラウド・AI活用が未浸透
 - 紙や転記作業がまだ残る
 - 非クラウド型の校務支援システムが時代遅れに
 - アプリと校務システムの未連携
- 4 端末の積極的活用**
- 端末活用率に格差
 - 教師の指導力にも差
 - デジタル教科書の活用

円滑な活用の前提条件の整備

苦手意識の軽減
余剰時間の創出

KPI ✓ 指導者用端末整備済み自治体 64.6%(R4)→100%(R6) ✓ 常時端末活用ができるよう十分な予備機を整備している自治体 ●→80%(R7)→100%(R10)	KPI ✓ 無線LAN又は移動通信システム（LTE等）によりインターネット接続を行う普通教室の割合 97.8%(R4)→100%(R6) ✓ 端末利用に係る回線の速度を計測・把握した学校 ●→100%(R6) ✓ 課題のある学校についてアセスメント実施済みの自治体 ●→100%(R7) ✓ 必要なネットワーク速度確保済みの学校 35.7%※→100%(R7) (※) サンプル調査 ✓ クラウド対応の教育情報セキュリティポリシー策定済み自治体 49.1%(R5)→100%(R7)	KPI ✓ クラウド環境を活用した校務DXを積極的に推進している学校※ 5.5%(R5)→100%(R8)★ (※) 児童生徒・保護者との欠席・遅刻・早退連絡や各種連絡・調査・アンケート、校内での情報共有や資料作成、調査・アンケートについてクラウドサービスを積極的に取り入れている学校 ✓ FAXでのやり取り・押印を原則廃止した学校 1.1%(R5)→100%(R7)★ ✓ 校務支援システムへの名簿情報の不必要な手入力作業を一掃した学校 ●→100%(R7)★ ✓ 生成AIを校務で活用する学校 1.2%(R5)→50%(R7) ✓ 次世代の校務システムの導入に向けた検討を行う自治体 63.4%(R5)→100%(R8)★	KPI ✓ 当該年度にICT研修を受講する教員の割合 73.0%(R4)→100%(R6) ✓ 教師のICT活用指導力の向上 ①授業にICTを活用して指導する能力 78.1%(R4)→100%(R7) ②児童生徒のICT活用を指導する能力 79.6%(R4)→100%(R7) ✓ 情報通信技術支援員（ICT支援員）の配置 5.7校/人(R3)→4校/人(R7) ✓ 端末を週3回以上活用する学校 小：90.6%(R5)→100%(R6) 中：86.5%(R5)→100%(R6) ✓ デジタル教科書を実践的に活用している学校の割合 40.5%(R4)→80%(R8)→100%(R10)
--	---	--	---

アウトカム

①個別最適・協働的な学びの充実 ②情報活用能力の向上 ③学びの保障 ④働き方改革への寄与

KPI ✓ 以下の場面で児童生徒が端末を週3回以上活用する学校 ①調べ場面 小：70.1%(R5)→100%(R8) 中：64.9%(R5)→100%(R8) ②発表・表現する場面 小：46.0%(R5)→80%(R8) 中：44.4%(R5)→80%(R8) ③教職員とやりとりする場面 小：53.3%(R5)→80%(R8) 中：49.4%(R5)→80%(R8)	KPI ④児童生徒同士でやりとりする場面 小：40.2%(R5)→80%(R8) 中：34.1%(R5)→80%(R8) ⑤理解度等に合わせて課題に取り組む場面 小：44.9%(R5)→80%(R8) 中：36.1%(R5)→80%(R8)	KPI ✓ 情報活用能力の底上げ ①小：レベル3、中：レベル5以下の減少※ 小：49.9%(R4)→20%以下(R8) 中：57.1%(R4)→20%以下(R8) ②キーボードによる日本語入力スキルの上昇（文字/分） 小：15.8字(R4)→40字(R8) 中：23.0字(R4)→60字(R8) (※) 情報活用能力を9段階（レベル9が最高）に分けて調査している（主な観点として、①基本的な端末操作等、②問題解決・探究における情報活用、③プログラミング、④情報モラル・セキュリティが含まれている。）	KPI ✓ 希望する不登校児童生徒へ端末を活用した授業への参加・視聴の機会を提供している学校の割合 ●→100%(R8) ✓ 希望する児童生徒への端末を活用した教育相談を実施している学校の割合 ●→100%(R8) ✓ 外国人児童生徒に対する学習活動等の支援に端末を活用している学校の割合 ●→100%(R8) ✓ 障害のある児童生徒や病児療養児等、特別な支援を要する児童生徒の実態等に応じて端末を活用した支援を実施している学校の割合 ●→100%(R8)	KPI ✓ 次世代の校務システムを導入済みの自治体の割合 ●→100%(R11)★ ✓ 教職員の働き方改革にも資するロケーションフリーでの校務処理を行っている自治体の割合 ●→100%(R11) (参考) 2024年中に設定予定である学校における働き方改革の推進に係る指標（例：時間外在校等時間月45時間（国の上限指針）以下の割合等）
--	---	--	---	---

●：現時点において未調査の数値

★：ダッシュボードにより進捗を管理するKPI

※本資料については、取組の進捗を踏まえて継続的に見直す。

国の示すKPIと枚方市の達成状況

項目	教育DXに係る当面のKPI	枚方市	国	
		現状値(年度)	現状値(年度)	目標値(目標年度)
1人1台端末の整備	指導者用端末整備済み自治体の率	100%(R5)	64.6%(R4)	100%(R6)
	1人1台端末を常時活用ができるよう、十分な予備機を整備している自治体の率	国調査により今後把握予定	今後把握	100%(R10)
ネットワークの改善	無線LAN又は移动通信システム(LTE等)によりインターネット接続を行う普及教室の率	100%(R5)	97.8%(R4)	100%(R6)
	端末利用に係る回線の速度を計測・把握した学校の率	国調査により今後把握予定	今後把握	100%(R6)
	課題のある学校についてアセスメントを実施済みの自治体の率	国調査により今後把握予定	今後把握	100%(R7)
	必要なネットワーク速度を確保済みの学校の率	国の算出方法に 合わせて今後把握予定	(サンプル調査35.7%)	100%(R7)
	クラウド対応の教育情報セキュリティポリシー策定済み自治体の率	100%	49.1%(R%)	100%(R7)
校務のデジタル化	クラウド環境を活用した校務DXを積極的に推進している学校の率	国の算出方法に 合わせて今後把握予定	5.5%(R5)	100%(R7)
	※児童生徒、保護者との欠席・遅刻・早退連絡や各種連絡・調査・アンケート、校内での情報共有や資料共有、調査・アンケートについてクラウドサービスを積極的に取り入れている学校	国の算出方法に 合わせて今後把握予定	1.1%(R5)	100%(R7)
	FAXでのやり取り・押印を原則廃止した学校の率	国調査により今後把握予定	今後把握	100%(R8)
	校務支援システムへの名簿情報の不必要な手入力作業を一掃した学校の率	国の算出方法に 合わせて今後把握予定	1.2%(R5)	50%(R7)
	生成AIを校務で活用する学校の率	100%(R5)	63.4%(R5)	100%(R8)
1人1台端末の積極的活用	次世代の校務システムの導入に向けた検討を行う自治体の率	100%(R5)	73.0%(R4)	100%(R6)
	毎年度ICT研修を受講する教員の率	5.25校/人(R5)	5.7校/人(R3)	4校/人(R7)
	情報通信技術支援員(ICT支援員)の配置	①81.3%(R4)	①78.1%(R4)	100%(R7)
	教師のICT活用指導力の率	②81.3%(R4)	②79.6%(R4)	100%(R7)
	①授業にICTを活用して指導する能力	小:100%(R5)	小:90.6%(R5)	小:100%(R6)
	②児童生徒のICT活用を指導する能力	中:100%(R5)	中:86.5%(R5)	中:100%(R6)
	1人1台端末を週3回以上活用する学校の率	国による抽出調査	40.5%(R4)	100%(R10)
	デジタル教科書を実践的に活用している学校の率			

項目	教育DXに係る当面のKPI	枚方市	国	
		現状値(年度)	現状値(年度)	目標値(目標年度)
個別最適・協働的な 学びの充実	児童生徒が自分で調べる場面において1人1台端末を週3回以上使用させている学校の率	小:90.9%(R5) 中:89.3%(R5)	小:70.1%(R5) 中:64.9%(R5)	小:100%(R6) 中:100%(R6)
	児童生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面において1人1台端末を週3回以上使用させている学校の率	小:81.8%(R5) 中:84.3%(R5)	小:46.0%(R5) 中:44.4%(R5)	小:80%(R8) 中:80%(R8)
	教職員と児童生徒がやりとりする場面において1人1台端末を週3回以上使用させている学校の率	小:93.2%(R5) 中:84.2%(R5)	小:53.3%(R5) 中:49.4%(R5)	小:80%(R8) 中:80%(R8)
	児童生徒同士がやりとりする場面において1人1台端末を週3回以上使用させている学校の率	小:79.5%(R5) 中:79.0%(R5)	小:40.2%(R5) 中:34.1%(R5)	小:80%(R8) 中:80%(R8)
	児童生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面において1人1台端末を週3回以上使用させている学校の率	小:61.4%(R5) 中:73.7%(R5)	小:44.9%(R5) 中:36.1%(R5)	小:80%(R8) 中:80%(R8)
情報活用能力の向上	小学校レベル3、中学校レベル5以下の児童生徒の率 ※国が毎年実施している抽出調査で、情報活用能力を9段階(レベル9が最高)に分けて調査	国による抽出調査	小:49.9%(R4) 中:57.1%(R4)	小:20%以下(R8) 中:20%以下(R8)
	キーボードによる日本語入力スキルの向上(文字/分)		小:15.8字(R4) 中:23.0字(R4)	小:40字(R8) 中:60字(R8)
学びの保障	希望する不登校児童生徒へ端末を活用した授業への参加・視聴の機会を提供している学校の率	今後把握	今後把握	100%(R8)
	希望する児童生徒への端末を活用した教育相談を実施している学校の率	今後把握	今後把握	100%(R8)
	外国人児童生徒に対する学習活動等の支援に端末を活用している学校の率	今後把握	今後把握	100%(R8)
	障害のある児童生徒や病気療養児等、特別な支援を要する児童生徒の実態等に応じて端末を活用した支援を実施している学校の率	今後把握	今後把握	100%(R8)
働き方改革への寄与	次世代の校務支援システムを導入済みの自治体の率	今後把握	今後把握	100%(R11)
	教職員の働き方改革にも資するロケーションフリーでの校務処理を行なっている自治体の率	今後把握	今後把握	100%(R11)

不登校を未然に防止するための1人1台端末の活用

居場所づくり(どの児童・生徒も落ち着ける場所)

絆づくりのための場づくり(全ての児童・生徒が活躍できる場面)

- ✓ 自分に適した方法で考えや思いを表現することができる。
- ✓ 自分のペースで学習を進めることができる。
- ✓ 自分の成果物や作品に「いいね」やコメント、アドバイスをもらうことで、自己肯定感が高まる。
- ✓ 困った時に、友だちの考えを参考にしたり、一緒に成果物を作り上げることができる。

個別最適



自分に適したアプリで学びやすい環境づくり

個別最適



動画視聴、ウェブ検索等、自分に合った方法・ペースで学ぶ

つながり



学校外からでも授業に参加し、学びを継続する

つながり



友だちと相談しながら一緒に作品を作る

個別最適



タイピング、タッチペン、ノート、写真、自分に合った方法でまとめる

個別最適

つながり



児童・生徒の考えや進捗状況を確認して、一人ひとりに適切な声かけを行う

つながり



友だちの考えに「いいね」を付けたり、コメントをしたりする

つながり



気持ちの視覚化で児童生徒の様子を見とる一助に
匿名相談で外部機関につながる